

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年6月26日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	5月の価格情報		6月		6月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し	「図の見方」 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						
葉菜類	キャベツ	88.59 67.20	77	67.20	68 68	・8,070t (88%)	千葉(50)、茨城(24)、群馬(10)		千葉産は、出荷終盤を迎えるなか、4、5月の天候不順の影響から出荷がずれ込み、現在平年より多めの出荷となっている。気温上昇に伴う傷み等が散見されるものの、引き続き平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、好天に恵まれ肥大が進み、前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、6月の降雨と好天により遅れていた生育が回復したことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		91.02 81.66	80	81.66	69 74	・1,940t (103%)				茨城(34)、愛知(18)、長野(13)、群馬(8)
	たまねぎ	78.12	95	78.12	94 87	・7,474t (127%)	佐賀(40)、兵庫(19)、香川(12)		佐賀産は、作付面積の減少から、平年より少なめの出荷となっており、中晩生の終盤期で干ばつ傾向により肥大が鈍いこともあり、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、中生が終了し晩生の出荷が中心となっており、引き続き平年並の出荷の見込み。香川産は、天候に恵まれ生育は順調で豊作傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。	
		78.12	104	78.12	98 84	・2,132t (113%)				兵庫(69)、北海道(11)、佐賀(8)
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31	374	277.31	383 412	・1,656t (118%)	茨城(66)、千葉(20)		茨城産は、干ばつ傾向で肥大が鈍いものの、初夏ねぎが出荷のピークを迎えていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏ねぎが本格的な出荷を迎え、現在平年並みの出荷となっており、作付面積の増加もあり、今後は平年より多めの出荷の見込み。	
		334.73	286	334.73	280 280	・222t (124%)				徳島(28)、香川(20)、三重(16)、奈良(13)
	はくさい	67.05	45	67.05	52 84	・2,359t (131%)	長野(55)、茨城(25)		長野産は、干ばつ気味で、現在平年より少なめの出荷となっているものの、6月の降雨により、肥大も良好であることから、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。茨城産は、出荷終盤を迎えるなか、現在平年並みの出荷となっており、例年通り6月末には切り上がる見込み。	
		74.06	78	74.06	75 86	・1,443t (116%)				長野(86)
	ほうれんそう	376.10	436	376.10	475 513	・617t (99%)	群馬(29)、茨城(27)、栃木(15)		群馬産は、5月から夜温が低いため、生育がやや遅れているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、4、5月の低温等の影響により生育が遅れていることから、7月初旬までは平年より少なめ、初旬以降は平年並みに回復する見込み。	
		416.73	520	416.73	582 661	・273t (89%)				岐阜(79)
	レタス(結球)	156.23	97	120.13	107 111	・4,433t (96%)	長野(72)		長野産は、6月に入ってからの降雨で干ばつ傾向が解消され、現在少なめの出荷量は、今後は平年並みに回復する見込み。	
		165.00	103	125.61	119 118	・1,479t (89%)				長野(97)
果菜類	きゅうり	189.84	214	189.84	231 262	・5,094t (99%)	埼玉(26)、群馬(19)、福島(15)、岩手(15)、秋田(3)		埼玉産は、5月の気温高により、加温、無加温作とも成り疲れが出ていることから、引き続き少なめの出荷の見込み。群馬産は、出荷終盤を迎えるなか、平年並みの出荷量となっており、7月初旬には切り上がる見込み。福島産は、露地作が低温等による影響から、現在平年より少なめの出荷となっており、生育は概ね順調であるものの、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、6月以降曇天の影響により、平年より少なめの出荷となっている。夜温が低く、梅雨に入ったこともあり、今後は平年より少なめの見込み。秋田産は、7月には本格出荷を迎えるなか、低温の影響による出荷の遅れから現在は平年よりやや少なめの出荷であるものの、平年並みの出荷に回復する見込み。	
		186.08	192	186.08	188 220	・1,770t (108%)				宮崎(28)、愛媛(12)、群馬(12)、福島(10)、高知(10)
	トマト(大玉)	230.55	245	230.55	240 260	・6,180t (92%)	栃木(23)、千葉(13)、熊本(13)、茨城(11)、愛知(10)、青森(2)		栃木産は、冬春作が出荷終盤を迎えるなか、現在平年並みの出荷となっており、7月上旬には切り上がる見込み。千葉産は、無加温作が盛期に入り、生育、作柄ともに良好であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。熊本産は、出荷終盤を迎えるなか、低温の影響で、平年より少なめの出荷量となっており、例年通り県内の主要産地は、6月末で切り上がる見込み。茨城産は、これまでの前進出荷の影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。愛知産は、出荷終盤期を迎えており、着果は概ね順調で肥大も良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、7月には本格出荷を迎えるなか、天候不順による出荷の遅れから現在は平年より少なめの出荷であるものの、平年並みの出荷に回復する見込み。	
		239.96	268	239.96	251 265	・2,423t (105%)				熊本(44)、北海道(17)、石川(9)
	なす	311.92	362	311.92	347 365	・2,625t (116%)	高知(30)、群馬(15)、福岡(15)、栃木(11)		高知産は、出荷終盤を迎えるなか、引き続き平年より多めの出荷で、例年通り7月上旬にかけて切り上がる見込み。福岡産は、品質に問題なく安定した出荷が続いていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、露地作の生育が順調であることから、引き続き多めの出荷の見込み。栃木産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		271.01	347	271.01	323 319	・1,139t (113%)				高知(21)、大阪(19)、熊本(16)、福岡(14)
	ピーマン	339.20	321	276.65	319 336	・1,240t (94%)	茨城(83)、岩手(5)		茨城産は、出荷後期を迎え、一部ほ場で病害が散見されるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、7月には本格出荷を迎えるなか、天候不順による出荷の遅れから、現在は平年より少なめの出荷であるものの、7月初めより平年並みの出荷に回復する見込み。	
		311.41	235	293.32	249 262	・529t (101%)				宮崎(32)、高知(17)、茨城(17)、大分(9)
	根菜類	だいこん	86.59	67	86.59	64 115	・2,459t (92%)	青森(54)、千葉(22)		青森産は、トンネル作とべた作の端境が生じていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、現在出荷終盤を迎えるなか、平年並みの出荷量となっており、6月末には切り上がりの見込み。
			89.53	62	89.53	78 127	・1,025t (78%)			
		にんじん	156.99	126	133.01	135 135	・3,334t (107%)	千葉(72)、青森(4)		千葉産は、出荷の盛期を迎えているものの、5月の干ばつ傾向の影響で肥大が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、7月には本格出荷を迎えるなか、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	148.36		99	132.62	106 107	・1,359t (103%)	長崎(30)、和歌山(27)、徳島(11)、青森(10)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。  
6 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段は5月16日～31日までの価格である。



1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	5月の価格情報		6月		6月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			
いも類	ばれいしょ	138.39	145 (105%)	138.39	140 (101%)	135 (98%)	<p>長崎産は、掘り取りが終了しており、4、5月の低温や少雨の影響により、小玉となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。静岡産は、小玉傾向となっているものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候不順により出荷が遅れ、小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</p> <p>静岡産の出荷が平年並みと見込まれるものの、長崎産及び茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均並みの価格は横ばいで推移するものの、7月から平均価格の水準が下がることから、平均を上回って推移する見込み。</p>
		144.98	149 (103%)	144.98	141 (97%)	140 (97%)	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg。上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。  
 6 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段は5月16日～31日までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	5月の価格情報		6月		6月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			
洋菜類	ブロッコリー	344.20	394 (114%)	397.28	355 (89%)	464 (117%)	<p>長野産は、5月の少雨で干ばつ気味ではあるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、出荷のピークを過ぎているものの、5月から6月初めにかけた生育遅れにより、出荷が後ろ倒しになっていることから、引き続き平年より多め出荷の見込み。青森産は、出荷終盤を迎えるなか、現在平年並みの出荷となっており、7月上旬には切り上がる見込み。</p> <p>福島産の出荷が平年より多めと見込まれるものの、長野産及び青森産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		363.21	394 (108%)	398.10	363 (91%)	475 (119%)	
アスパラガス	アスパラガス	1180.07	1353 (115%)	1146.51	1438 (125%)	1673 (146%)	<p>北海道産は、6月の日照不足等の影響により細物が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。佐賀産は、春先の曇天の影響で全体的に草勢が弱いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長崎産は、生育期の日照不足等の影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p> <p>栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産、佐賀産及び長崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		1331.67	1542 (116%)	1107.97	1442 (130%)	1643 (148%)	
葉茎菜類	こまつな	215.24	197 (92%)	255.29	297 (116%)	365 (143%)	<p>茨城産及び埼玉産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、夜温の低下により、生育が遅れ気味で小ぶりとなっているものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p> <p>茨城産、埼玉産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、品種の切り替えにより端境が生じていることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		178.27	152 (85%)	189.07	203 (107%)	289 (153%)	

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック — トマトの需給動向について —

今回と次回に2回に渡り、トマトについて紹介する。

○トマトについて  
 原産地は、南米のペルーやエクアドルなどアンデス山脈の高原地域で、世界で発見されている9種類の野生のトマトのうち、8種類がこの地域を原産地としている。ペルーはアンデス山脈が国を貫く山岳乾燥地帯で雨量が少ない地域であるから、もともとトマトは雨を苦手とする。このため、高温多湿でも栽培ができるように品種改良や栽培の工夫が行われてきた。  
 トマトという名称は「膨らむ果実」を意味する「トマトル」からきているといわれている。トマトルとはもともと「ホオズキ」を意味し、形がよく似たトマトもこの名で呼ばれたといわれている。  
 トマトが日本に伝わったのは17世紀の半ばで、四代将軍徳川家綱のお抱え絵師であった狩野探幽が1668年に「唐なすび」（トマト）を描いている。また、江戸時代前期の儒学者貝原益軒も大和本草（1709年）で、「唐ガキ」と紹介している。これらの他にも、唐柿（とうし）、赤茄子（あかなす）、蕃茄（ばんか）、小金瓜（こがねうり）とも呼ばれていた。

トマトは、世界で最も栽培されている野菜で、2012年のFAO統計では全世界で1億6179万トンが生産され、中国が5000万トンで1位となっている。国内では冬春トマトが熊本県、愛知県、栃木県、夏秋トマトは、北海道、茨城県、熊本県が主たる産地となっており、熊本県と北海道はトマト類の一大産地となっている。総務省・家計消費状況調査（二人以上の世帯）によれば、平成28年の1世帯当たり年間購入量は約2.7キログラムと17年の1.4倍程度に増加している。

○消費者が好きな野菜「トマト」  
 種苗会社が毎年8月31日の「野菜の日」に公表している「野菜と家庭菜園に関する調査」によると、平成28年の好きな野菜の第1位がトマト、第2位がばれいしょ、第3位がメロンとなっている。過去8カ年を見ると、トマトは8年連続で第1位となっており、消費者から高く支持されていることがうかがえる。

○トマトを最も好きな野菜として選んだ理由  
 同調査で「トマトを最も好きな野菜として選んだ理由」を平成28年と24年で比較すると、「健康によいから」が第3位から第1位に、「栄養があると思うから」が第4位から第3位へ順位を上げており、健康志向の面で支持されていることがうかがえる。また、食材としての食べやすさも評価が高く、簡便志向の面でも支持されていることがうかがえる。

今回は、トマトを取り巻く状況やブランドについて、事例をまじえて紹介する。

図1 トマトの1人当たり年間支出金額及び購入量の推移(2世帯以上)

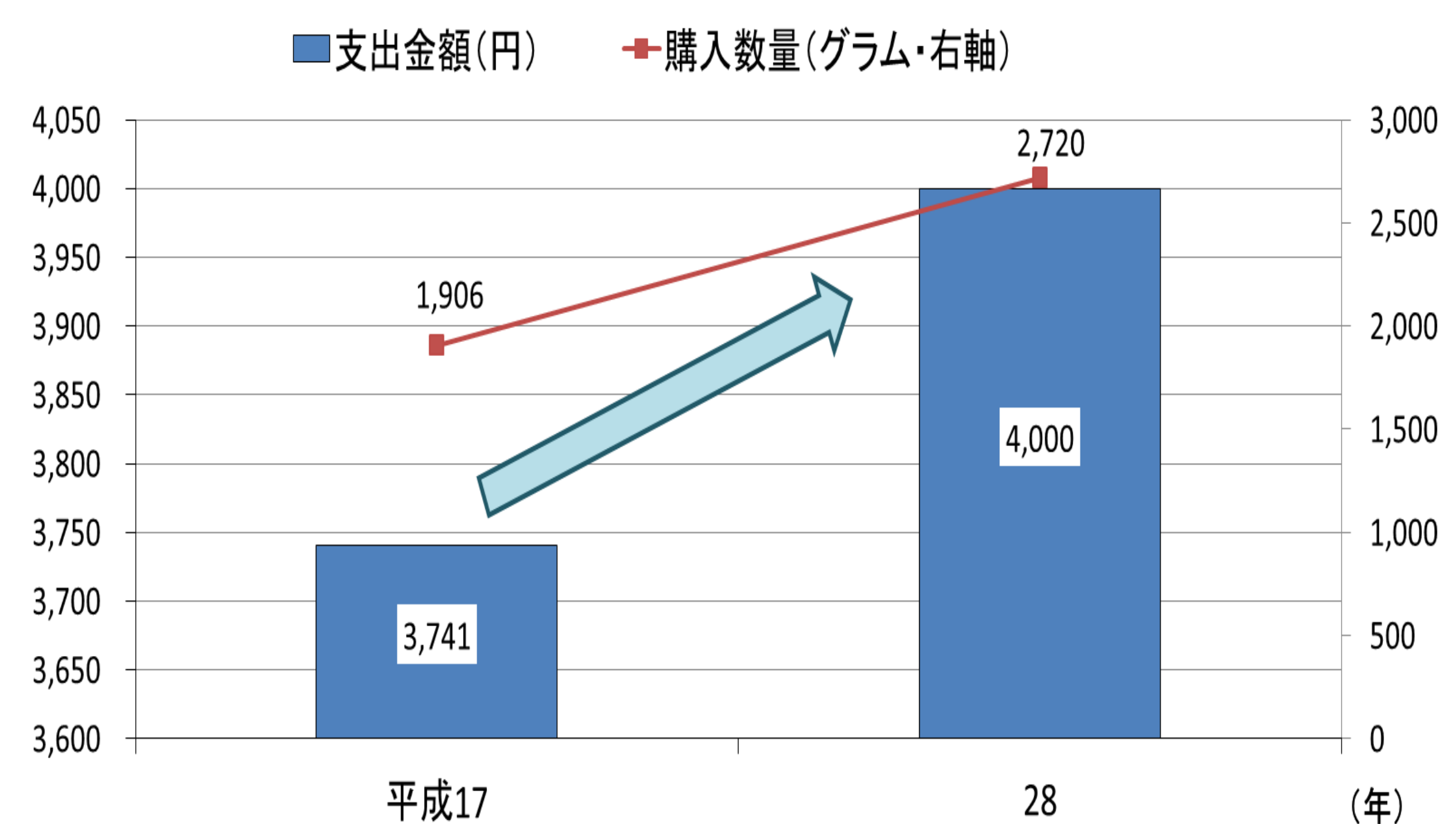
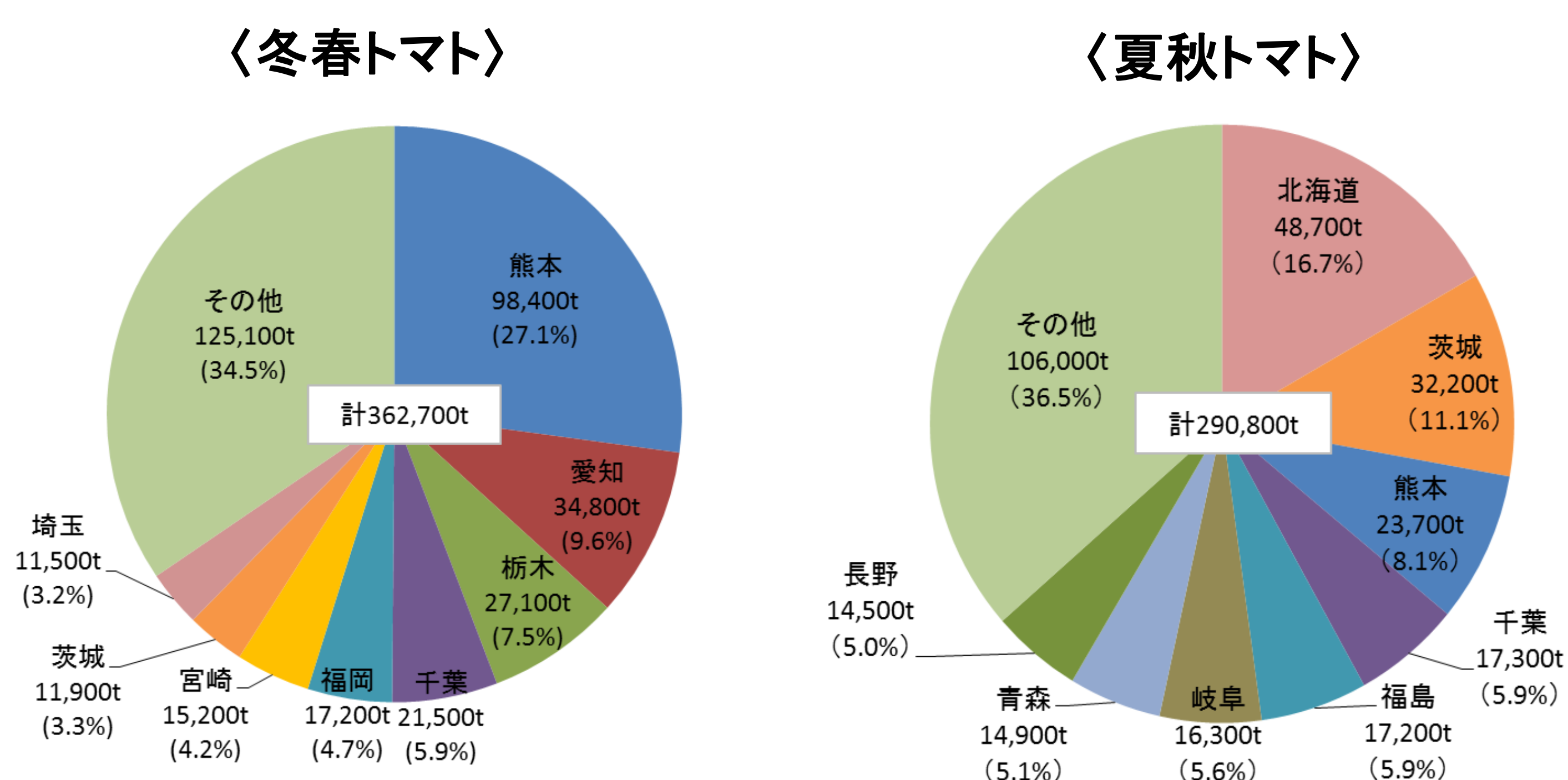


図3 消費者が好きな野菜の順位及び消費者が好きな野菜を選んだ理由

順位	品目	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
1	トマト	トマト	トマト	トマト	トマト	トマト	トマト	トマト	トマト
2	メロン	メロン	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ
3	ばれいしょ	すいか	メロン	すいか	メロン	たまねぎ	たまねぎ	メロン	
4	たまねぎ	ばれいしょ	すいか	スイートコーン	すいか	すいか	キャベツ	スイートコーン	
5	すいか	たまねぎ	たまねぎ	キャベツ	たまねぎ	メロン	えだまめ	すいか	

順位	理由	平成24年	平成28年
1	おいしいから		健康に良いと思うから
2	食材としてたべやすいから		おいしいから
3	健康に良いと思うから		栄養があると思うから
4	栄養があると思うから		食材としてたべやすいから
5	食材として料理しやすい・手間がかからないから		自分の好きな料理には欠かせないから

図2 トマトの産地別出荷量(平成27年)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：図1 総務省統計局「家計調査結果表（農林漁家世帯を除く）」、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」、図3 タキイ種苗株式会社「野菜と家庭菜園に関する調査（2009-2016）」より、機構作成。調査方法：インターネット、調査対象：20歳以上の男女、N600

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。  
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\_report.htmlに掲載しています。  
 ※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。